

東日本大震災からの復旧過程で考えたこと、 感じたこと

1

-東北学院大学図書館の経験を基に

平成24年11月29日（木）

2012年度私立大学図書館協会

東地区部会研究部研修会

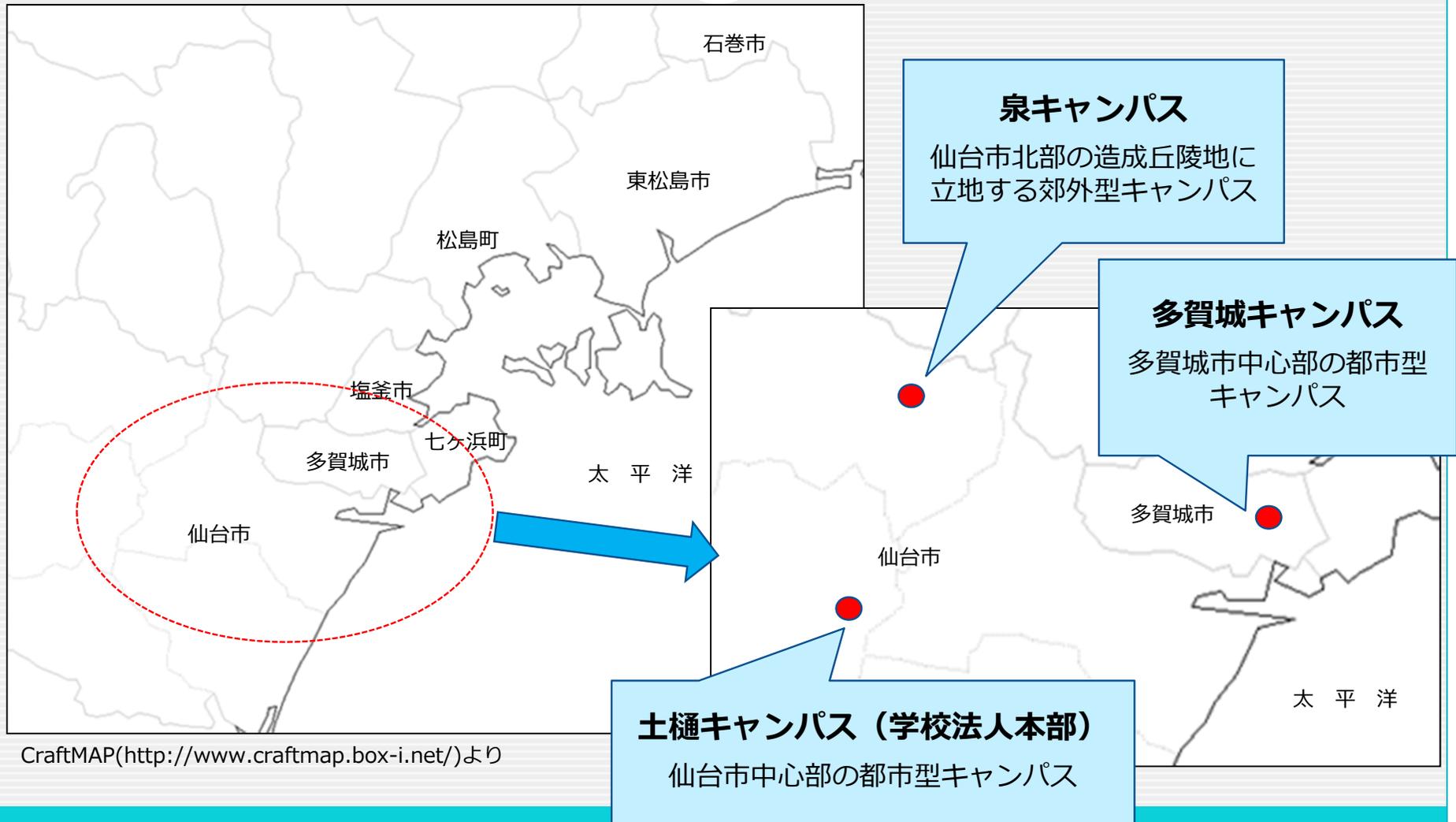
東北学院大学図書部図書情報課（中央図書館）

佐藤 恵

1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

3



1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要



▶ 土樋キャンパス (学生院生数4,176名)

文学部 昼間主コース 3・4年次
 文学部 夜間主コース 全学年
 経済学部 3・4年次
 経営学部 3・4年次
 法学部 3・4年次
 大学院 英語英文学・ヨーロッパ文化史・アジア文化史・経済学・経営学・法律学・法実務

▶ 多賀城キャンパス (学生院生数2,206名)

工学部 全学年
 大学院 機械工学・電気工学・応用物理学・土木工学・環境建設工学

▶ 泉キャンパス (学生院生数5,961名)

文学部 昼間主コース 1・2年次
 経済学部 1・2年次
 経営学部 1・2年次
 法学部 1・2年次
 教養学部 全学年
 大学院 人間情報学

※在籍者数：2011年5月1日現在

1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

1-1. 中央図書館・中央図書館分室

		中央図書館	中央図書館分室
専有延床面積 (㎡)		6,837	765
図書収容能力 (冊)		972,000	130,000
竣工年月		1984年11月	1985年12月 (改装)
閲覧座席数		799	
図書	蔵書冊数	659,597	73,716
	年間受入冊数	15,111	1,854
雑誌	所蔵タイトル数	8,311	1,070
	年間受入タイトル数	1,790	386
スタッフ数	専任職員	8	0
	委託職員	24	
通常期 開館時間	平日	8 : 30-22 : 00	10 : 00-21 : 00
	土曜日	8 : 30-22 : 00	10 : 00-17 : 00
年間開館日数		285	262

2010年3月現在

1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

➤ 館内構成（中央図書館）

5F	視聴覚室・貴重書展示室・館長室・事務室・会議室	
M4F	閉架書庫	雑誌バックナンバー
4F		洋図書
M3F		和図書(含 中国書)
3F		和図書
積層式書庫 書庫内蔵書 約65万冊		
2F	第二閲覧室(2階閲覧カウンター) 学習図書 マイクロリーダープリンター OPACコーナー	
1F	第一閲覧室(1階閲覧カウンター) 新聞 雑誌 参考図書 新着案内コーナー AVコーナー OPACコーナー	
開架 約3万冊		
B1F	地下書庫	新聞バックナンバー 政府刊行物資料

➤ 館内構成（中央図書館分室）

4F	研究室	
3F	教育・研究等支援室	
2F	講義室	書庫4F 洋書(LC)
		書庫3F 和書(6~9類) 洋書(DC)
		書庫2F 和書(0~6類)
		書庫1F 和・洋雑誌等
1F	施設課	雑誌コーナー(読書室)
		書誌コーナー
		中央図書館分室カウンター

1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

1-2. 泉キャンパス図書館

専有延床面積 (㎡)		6,100
図書収容能力 (冊)		480,000
竣工年月		1988年3月
閲覧座席数		500
図書	蔵書冊数	299,554
	年間受入冊数	10,771
雑誌	所蔵タイトル数	3,587
	年間受入タイトル数	1,133
スタッフ数	専任職員	3
	委託職員	10
通常期 開館時間	平日	8 : 30-20 : 00
	土曜日	8 : 30-20 : 00
年間開館日数		288

2010年3月現在

➤ 館内構成

2F	2階閲覧カウンター 閲覧席(貸出返却カウンター) 和図書 [NDC分類] 辞書 大型本 資格図書コーナー AVコーナー OPACコーナー 視聴覚室	[2F 案内図へ]
1F	1階閲覧カウンター 閲覧席(レファレンスカウンター) 雑誌 大学論集・紀要 辞書 白書・統計・書誌 マイクロリーダー室 OPAC 新聞閲覧コーナー 学習室 教職員・大学院生閲覧室 研修室 事務室・閲覧事務室・会議室	[1F 案内図へ]
B1F	雑誌バックナンバー 和図書(中国書) [NDC分類]	
B2F	開架書庫 洋図書 [LC分類] 和図書 [NDC分類] 新聞バックナンバー	

1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

1-3. 多賀城キャンパス図書館

専有延床面積 (㎡)		2,776
図書収容能力 (冊)		150,000
竣工年月		1982年1月
閲覧座席数		324
図書	蔵書冊数	151,288
	年間受入冊数	2,299
雑誌	所蔵タイトル数	3,041
	年間受入タイトル数	923
スタッフ数	専任職員	2
	委託職員	6
通常期 開館時間	平日	8 : 30-20 : 00
	土曜日	8 : 30-20 : 00
年間開館日数		287

2010年3月現在

➤ 館内構成

2F	第二閲覧席 洋図書 雑誌 雑誌バックナンバー OPACコーナー 第三閲覧室 教職員・院生閲覧室 視聴覚室 会議室	[2F 案内図へ]
1F	第一閲覧席(貸出返却・レファレンスカウンター) 和図書 辞書コーナー 入門書コーナー 資格図書コーナー 展示コーナー ベストセラーコーナー 大型本コーナー AVコーナー OPACコーナー 学習室 新聞コーナー 資料室 事務室・第一研修室	[1F 案内図へ]

2. 東日本大震災以前の取り組み

2. 東日本大震災以前の取り組み

10

宮城県において頻繁に起こる地震を背景に・・・

昭和53（1978）年6月12日 宮城県沖地震
仙台市：震度5（マグニチュード7.4）

平成20（2008）年6月14日 岩手・宮城内陸地震
仙台市青葉区：震度5弱（マグニチュード7.2）

10年以内に99%の確率で起こると言われていた
宮城県沖地震を意識した備え

2.東日本大震災以前の取り組み（大学全体）

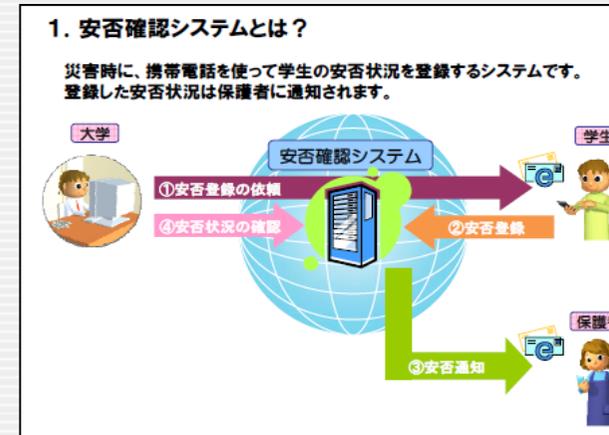
➤ 2-1. 大学全体の取り組み

- 災害対策委員会及び防災組織の改組
- 地震保険の加入
- 緊急時優先電話の導入（固定電話及び携帯電話）
- 防災備蓄品の導入
- 緊急地震速報装置（「デジタルなまず」）の導入
- 震災時使用無線の導入
- 校舎の耐震診断および耐震補強工事の実施
- 安否確認システムの導入
- 地震対策の実施
（家具の転倒防止・ガラス飛散防止・落下防止）
- 防災訓練の実施（上級救命講習から防災訓練）

2.東日本大震災以前の取り組み（大学全体）



防災備蓄品



安否確認システム



緊急地震速報装置（「デジタルなまず」）



震災時使用無線

2.東日本大震災以前の取り組み（図書館）

2-2. 図書館の取り組み

- 図書の落下防止対策（中央図書館のみ）



書架の上段2-3段目に落下防止バーを設置



手動で解除

⇒2008年度より年次計画で設置開始（計画時点で岩手宮城内陸地震発生）
⇒4年間で約13,000本設置

- 全学避難訓練への職員・委託スタッフの参加
- 拡声器・懐中電灯・手動式充電ラジオ・防犯ブザーの設置
⇒2011年度に図書館の一般開放を予定、危機管理対策の一環として購入
- 緊急時マニュアルの整備

3. そのとき

3. そのとき

3-1. 頻発していた地震とスタッフ間の注意喚起

- ▶ 2011年3月9日 11時45分頃
最大震度5弱 マグニチュード7.2 仙台市青葉区：震度3
- ▶ 2011年3月10日 6時24分頃
最大震度4 マグニチュード6.6 仙台市青葉区：震度2

日本気象協会 tenki.jp (<http://tenki.jp/>) より

＜委託スタッフ業務連絡引き継ぎ書（報告日：3月9日・10日）より抜粋＞

- ・各自緊急時マニュアルを確認しておくこと
- ・閲覧カウンタースタッフは小規模でも地震が起きた際は利用者へ書架から離れるよう館内放送orハンドマイクで指示すること
- ・緊急時に備え連絡網が手元にあるか確認すること
- ・勤務時間外に被害に遭った場合や通勤困難な事態に陥った場合の連絡手段を確認しておくこと

3. そのとき（土樋キャンパス）

3-2. 東日本大震災発生当時の開館状況（春期休暇中）

	開館状況	在館利用者数	スタッフ 在館状況
中央図書館	通常開館	20名程度 (閉架書庫入庫1名)	合計21名 閲覧フロア：委託スタッフ11名 事務フロア：委託スタッフ4名 専任職員6名
中央図書館分室	通常開館	0名	閲覧フロア：2名
泉キャンパス図書館	閉館 (蔵書点検日)	0名	合計10名 閲覧フロア：委託スタッフ5名 統括1名 事務フロア：委託スタッフ2名 専任職員2名
多賀城キャンパス 図書館	通常開館	5名程度	合計6名 閲覧・事務フロア： 委託スタッフ5名 専任職員1名

3. そのとき（土樋キャンパス）

3-3. 東日本大震災発生当時の状況（中央図書館・分室）

	大学（土樋キャンパス）の動き	中央図書館・分室の動き
14:46	土樋キャンパス5号館において全学教授会開催中。 全専任教員のほか、学長、副学長を含めた役職者も出席。	本震発生 仙台市青葉区：震度6弱 震源：三陸沖 マグニチュード8.8（観測史上最大）→後日9.0に修正 揺れの時間：約170秒（2012/3/28 気象庁報道資料発表より） 館内利用者に対し、 大声で 書架から離れ身の安全を確保するよう注意連絡、安全誘導のアナウンス
14:47ごろ	揺れが激しすぎて放送設備まで辿り着けず	全館停電。非常灯およびコンピュータ用無停電電源装置（UPS）・火災報知器作動
14:48ごろ		最も強い揺れが少しおさまった時点で、揺れている最中ではあったがスタッフが館内を回り呼びかけを行う

3. そのとき（土樋キャンパス）

	大学（土樋キャンパス）の動き	中央図書館・分室の動き
14：50 ごろ		<p>委託統括・閲覧スタッフが閲覧フロアにいた利用者の安全確認を行い、手荷物を持たずに指定避難場所（グラウンド）へ避難するよう誘導。</p> <p>スタッフも着の身着のまま学内指定避難場所（グラウンド）へ避難。</p> <p>専任職員・委託統括・閲覧リーダーは分担して閉架書庫内の安全確認へ</p> <p>システム担当者はサーバーを確認後、完全停電に備えシャットダウン、通電時の事故防止のため、各種機器電源をOFFに。</p>
15：30 ごろ	<p>各部署職員が協力し、防災倉庫や施設課内よりブルーシートや毛布等の物資を搬出。</p> <p>この時点では停電のため、地震の被害状況・津波などの情報は伝わっていない。</p>	<p>閲覧フロア、閉架書庫ともに無人であることを確認の上、専任職員・委託統括・閲覧リーダー避難開始。</p> <p>この時点で避難場所は隣接する東北大学片平キャンパステニスコート（緊急避難場所として本学が東北大より使用許可を受けていた）へ変更となっていた。後から避難した専任職員・委託統括・閲覧リーダーはテニスコートへ直行。</p>

3. そのとき（土樋キャンパス）

	大学（土樋キャンパス）の動き	中央図書館・分室の動き
15 : 55	学生安否確認システム発動	
15 : 57 ごろ	水道：一部不通 電気・ガス：完全ストップ	手荷物や上着を残してきた職員が一旦図書館へ戻る。そこで初めて仙台空港に津波が到達している映像を携帯電話のワンセグ放送で目にする。
16 : 00 ごろ	降雪が激しくなる。 暫定的ではあるが土樋キャンパス体育館の安全が確認されたため、避難していた全員が体育館へ移動。 **専任職員の動き** 1) 学生・教職員の避難誘導 2) 生協の物資提供折衝 3) 7号館屋上煙突倒壊の危険性があり、自主的に市道を封鎖、交通整理実施 4) 正門前にテント設営	委託スタッフについては解散とし、各自安全に帰宅するよう伝える（大部分が徒歩で帰宅） 今後については随時連絡することとする。
	東北学院災害対策本部設置 （土樋キャンパス本館会議室） メンバー：理事長、学長以下、各課長まで	

3. そのとき（土樋キャンパス）

	大学（土樋キャンパス）の動き	中央図書館・分室の動き
	<p>地下鉄・JR等の公共交通機関がすべてストップしたことから、体育館を宿泊可能な避難所とし、設営を開始。図書館専任職員を含めた大学職員・残った委託スタッフに学生会常任委員の学生が加わり、非常用バッテリー・簡易トイレ・着替え用テントの設置や、ランタン・水・簡易食料等の搬入・配布を行う。この頃になり、多賀城市方面に津波襲来の情報が入る。</p>	
	<p>東北学院大学生生活協同組合から在庫食料・飲料の提供を受け、避難者へ配布。 近隣住民も避難してくる</p>	
	<p>体育館内にて職員ミーティング。翌日は施設管理部門・学生部門と各課長のうち通勤可能な者は集合し、それ以外の職員は自宅待機指示。帰宅困難者は体育館に宿泊し、それ以外の職員は解散。大部分が徒歩で帰宅。</p>	

3. そのとき（土樋キャンパス）

	大学（土樋キャンパス）の動き	中央図書館・分室の動き
21:00	<p>災害対策本部において各キャンパス・法人各校の状況を把握</p> <ul style="list-style-type: none">＜土樋キャンパス＞ 約400名が体育館に避難＜泉キャンパス＞ 約70名（学生・一般市民）が1号館1階ロビーに避難＜多賀城キャンパス＞ 約400名が礼拝堂に避難（多賀城市からの要請により、礼拝堂を避難場所に開放）＜中学・高等学校＞ 約700名（生徒）が保護者を待って各教室にて待機＜榴ヶ岡高等学校＞ 生徒・教職員全員無事。全員下校済み＜幼稚園＞ 園児8人が先生と一緒に保護者の迎えを待って多賀城キャンパスにて待機後、全員無事に帰宅	
深夜	各キャンパスの避難者数を報道機関へ連絡	

3. そのとき（土樋キャンパス）



テニスコートに避難。この時点で停電のため地震の被害状況、津波などの情報はまだ伝えられていなかった

地震によって土樋キャンパス7号館の煙突部分が折れる。この後六軒丁通りを東北学院独自の判断で通行止めし、安全を確保



降り出した雪と寒さを避けるため、安全が確認された体育館に移動。余震が続く停電の中、不安な一夜が始まった



防災倉庫、備蓄倉庫の物資を運び込み、防寒対策がとられる



生協店舗より提供された食料を配布

3. そのとき（泉キャンパス）

3-4. 東日本大震災発生当時の状況（泉キャンパス図書館）

	大学（泉キャンパス）の動き	泉キャンパス図書館の動き
14:46		本震発生 仙台市泉区：震度6弱
14:47 ごろ		全館停電。非常灯およびコンピュータ用無停電電源装置（UPS）・火災報知器作動
15:30 ごろ		全員の安否確認後、スタッフ解散。委託スタッフ・専任職員ともに怪我人なし
		専任職員・委託統括はテントや仮設トイレの設営、学生対応等の補助。
21:00	約70名（学生・一般市民）が1号館1階ロビーに避難	

3. そのとき (泉キャンパス)



体育館は地盤が激しく揺れたため、天井部の建材が落下



教室の照明や機材なども落下や転倒で大きな被害を受けた



構内では大きな地盤の隆起が発生

3. そのとき（多賀城キャンパス）

3-5. 東日本大震災発生当時の状況（多賀城キャンパス図書館）

	大学（多賀城キャンパス）の動き	多賀城キャンパス図書館の動き
14:46		本震発生 多賀城市：震度5弱
14:47 ごろ		全館停電。非常灯およびコンピュータ用無停電電源装置（UPS）、火災報知器作動
		専任職員、委託スタッフから館内利用者に対し、館内放送にて書架から離れ身の安全を確保するよう注意連絡、安全誘導のアナウンス。
14:48 ごろ		最も強い揺れが少しおさまった時点で、揺れている最中ではあったが1, 2階へ別れ館内を回り、利用者の安全確認を行い、避難場所（グラウンド）へ避難するよう誘導。
15:00 ごろ		当初全員が指定避難場所（グラウンド）へ避難したが、国道45号線まで津波襲来との情報により高台にある図書館・礼拝堂前スペースへ移動。 利用者・委託スタッフ・専任職員ともに怪我人なし

3. そのとき（多賀城キャンパス）

	大学（多賀城キャンパス）の動き	多賀城キャンパス図書館の動き
	一般市民が避難してくる。中には津波に飲みこまれず濡れになった人も。保健室職員が怪我人等の手当を行うが、人手が足りず低体温症の症状を呈した市民を事務職員が介抱するなどの対応が行われる。	
21 : 00	約400名（学生・一般市民）が避難（多賀城市からの要請により、礼拝堂を避難場所に開放。体育館は照明落下のため使用不可）	

3. そのとき（多賀城キャンパス）



キャンパス近く（仙台港）で発生した
ガスタンク爆発事故



多賀城市からの要請により、礼拝堂を避難場所に開放



礼拝堂の狭い椅子の上で不安な一
夜を過ごす住民



家族を探す住民が貼った安否確認の
チラシや避難者名簿、一時帰宅者名
簿等が置かれる



職員は大学に泊まり込み避難所の
運営に当たった

3. そのとき

3-6. 避難行動を振り返って気が付いたこと

- ▶ 「安全な場所へ逃げて！」…って安全な場所ってどこ！？

⇒学内指定避難所だけでなく、日頃から館内の「危険箇所」「安全な場所」を把握・周知する必要あり

参考：石巻専修大学図書館地震対応マニュアルver.1（図書館ハザードマップあり）
<http://www.isenshu-u.ac.jp/library/img/2011bousai.pdf>

- ▶ 避難の際は「ここには暫く戻れない」ことを想定すべき？

- ・ 閲覧スタッフ

非常時の携行品の確認

⇒利用者誘導後、着の身着のまま避難。ひたすら寒さに耐えた

- ・ 利用者

⇒貴重品のみを持ち避難、まさか13日間もそのままになってしまうとは…

- ▶ 設備・施設に施した対策は十分な効果あり、しかし「人」への対策は…

3. そのとき

もしも…

-  夜間の開館時間帯に起きていたら…
-  長期休暇期間中ではなく通常の授業期間中だったら…
-  貴重書展示室で地震に遭っていたら…
 - ⇒もし出口がふさがってしまったら
 - ⇒何らかの原因でハロンガス消火装置が作動してしまったら
-  入庫手続きをしていない人が書庫内にいたら…
-  トイレやエレベーターに閉じ込められた人がいたら…

4. 翌日以降の状況

4. 翌日以降の状況

4-1. 翌日以降の状況

	大学の動き	3キャンパス図書館の動き
3/12(土)	<ul style="list-style-type: none">・災害対策本部会議開催 <p>【特記事項】</p> <p><土樋キャンパス> 体育館（避難場所）以外の建物への出入禁止</p> <p><泉キャンパス> キャンパス内の地盤沈下、地割れが著しく、各建物の被害が甚大であったことからキャンパス内全面立ち入り禁止。 キャンパス全域に配水している給水タンクの破損→断水。</p> <p><多賀城キャンパス> 関係者以外全面立ち入り禁止。</p> <p>【出来事】</p> <ul style="list-style-type: none">・泉・多賀城キャンパスの状況確認・後期入試合格発表（小掲示板にて） <p>23:00 土樋キャンパス一部の電気回復</p>	<p><中央図書館> 職員・委託統括・委託スタッフ ⇒自宅待機</p> <p><泉キャンパス図書館> 職員・委託スタッフ⇒自宅待機</p> <p><多賀城キャンパス図書館> 職員・帰宅困難なスタッフ ⇒避難所運営補助 委託スタッフ⇒自宅待機</p>

4. 翌日以降の状況

	大学の動き	3キャンパス図書館の動き
3/14 (月)	<p>【決定事項】 卒業式（3月24日）入学式（4月4日）中止</p> <p>【出来事】 8：30 災害対策本部にて職員全体ミーティング。 職員は所属問わず通勤可能な最寄のキャンパスへ出勤することとする 12：10 ・電話回線・インターネット・ホームページ復旧・ホームページによる情報発信再開</p> <p>【大学ホームページ 新着情報更新】 ・「【在学生の皆様へ】大震災による就職課からのお知らせ」 ・「卒業・学位記授与式 中止のお知らせ」</p>	<p>＜全館共通＞建物の」安全確認が不可能であるため、3/23(水) まで図書館建物内立ち入り禁止</p> <p>＜中央図書館＞ 出勤可能な職員・中央・泉統括・委託スタッフによる打ち合わせ 図書館玄関ドアに「休館」の掲示 ⇒その後解散 ※中央・泉統括は委託企業の仙台営業所へ</p> <p>＜泉キャンパス図書館＞ 職員・委託スタッフ：自宅待機</p> <p>＜多賀城キャンパス図書館＞ 職員・帰宅困難なスタッフ ⇒避難所運営補助 委託スタッフ⇒自宅待機</p>

4. 翌日以降の状況

	大学の動き	3キャンパス図書館の動き
3/15 (火)	<p>【大学ホームページ 新着情報更新】</p> <ul style="list-style-type: none">・【注意喚起】福島原発事故による備え・2011年度アメリカ研究夏期留学参加者ガイダンス延期のお知らせ・教職課程センターからの行事延期のお知らせ	<p><中央図書館・泉キャンパス図書館> 職員：通勤可能なキャンパスへ出勤。 学生安否確認・災害対策本部での問合わせ・受付等の補助に入る</p> <p>委託統括：委託企業仙台営業所へ出勤。途中適宜大学へ 委託スタッフ：自宅待機</p> <p><多賀城キャンパス図書館> ・職員・帰宅困難なスタッフ：避難所運営補助 ・委託スタッフ：自宅待機</p> <p>※この勤務体制が3/23（水）まで続く</p>

大学授業再開は5/9（月）を目標

テレビ・ラジオ・新聞にて、連日安否確認呼びかけと学事日程の変更をアナウンス

災害対策本部（本館会議室）は3/29（火）をもって閉鎖し、業務を総務課へ移管

4. 翌日以降の状況

4-2. 大学ライフライン復旧状況

	復旧日
電気	土樋キャンパス : 3月12日 (土) 泉キャンパス : 3月14日 (月) 多賀城キャンパス : 3月14日 (月)
水道	土樋キャンパス : 3月12日 (土) 泉キャンパス : 5月10日 (火) 多賀城キャンパス : 4月 4日 (月)
ガス	土樋キャンパス : 5月 9日 (月) 泉キャンパス : 4月24日 (日) 多賀城キャンパス : 4月 1日 (金)
電話	土樋キャンパス : 3月14日 (月) 泉キャンパス : (不明) 多賀城キャンパス : 3月16日 (水)
全学インターネットサーバー	3月14日 (月)
全学メールサーバー	3月16日 (水)
図書館システム (E-Cats) サーバー Windowsサーバー	3月25日 (金)

復旧の速さ
電気 > 水道 > 電話 > ガス

今回は市中心部の復旧が早かったため、早期復旧キャンパスが各種連絡窓口となり、各キャンパス・大学以外の設置学校に対し人や物資の融通を行うことができた

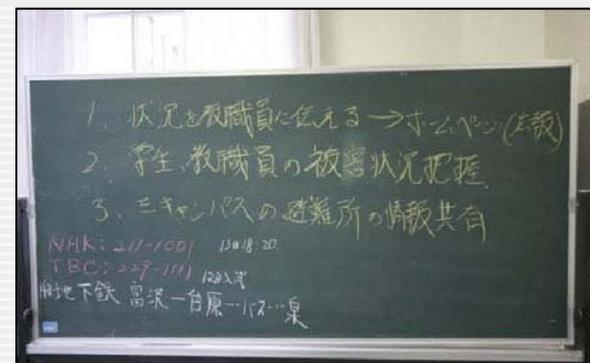
4. 翌日以降の状況



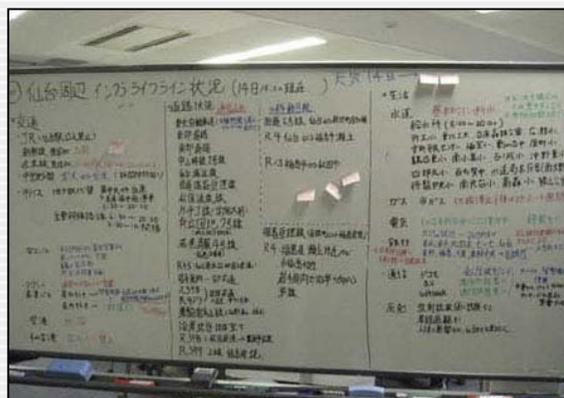
青山学院大学からの支援物資は津波被害を受けた多賀城市・塩釜市周辺住民の避難所となっていた多賀城キャンパスにも届けられた



本館会議室での災害対策本部会議（多賀城・泉、中・高、榴ケ岡、幼稚園の情報（は）電話の連絡のみの状況）



対策本部の黒板には情報伝達指示系統などが大書されている



ライフライン状況もホワイトボードに常に更新され続けた



後期日程入学試験の発表などもネットで発信することができず、土樋キャンパスの掲示板に掲示された



学生たちによるボランティア募集の様子

4. 翌日以降の状況

4-3. 震災直後の全職員最大の任務

▶ 学生・生徒安否確認

教職員・学生会常任委員（学生23名）による総力戦

⇒電話による安否確認 / 自治体発表避難者リスト調査 / 住所近くの避難所回り

▶ 大学における学生安否確認状況の推移

22（火）： 9,000名 確認済（学生2名の死亡確認）

23（水）： 10,384名 確認済（未確認数1,833名）

24（木）： 11,593名 確認済（未確認数624名）

28（月）： 11,984名の安全確認（未確認数233名）

31（木）： 12,217名 全員確認 確認状況100%（震災発生から21日目）

逝去者）大学：学生5名 / 高等学校：生徒2名 / 平成23年度入学予定者4名（中高2・大2）

※教職員は全員無事であったが、家族の死亡・自宅流失あり

4. 翌日以降の状況

4-4. 3/15（火）－3/23（水）までの図書館職員の業務

- 多賀城キャンパス避難所運営【多賀城キャンパス礼拝堂】
- 安否確認問い合わせ専用ダイヤルの受付【勤務場所：総務課】
- 学生安否確認（電話での問い合わせ）【勤務場所：学生課】
- 災害対策本部補助【勤務場所：総務課】

⇒この間図書館関連業務は一切行わず

⇒建物の安全確認は教室棟・本部棟・事務棟が優先

⇒3/23以降：卒業式中止による卒業証書発送等の教学系業務を各部署分担して担当



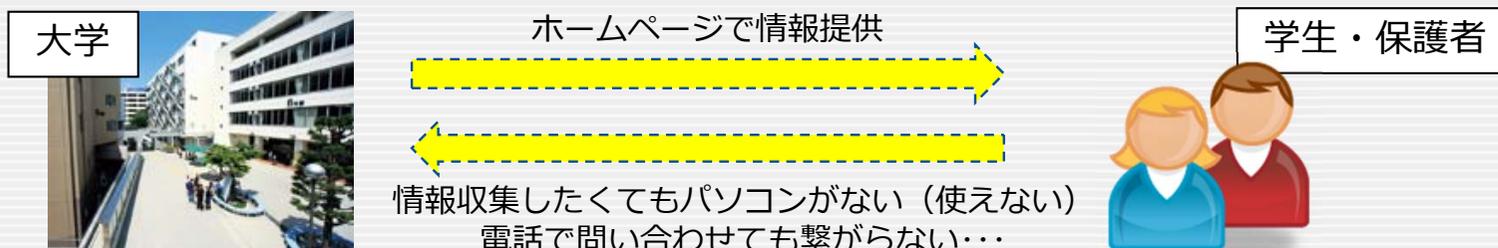
大規模災害時には、
「図書館職員」から「大学職員」へ

4. 翌日以降の状況

4-5. 困難を極めたこと

▶ テレビ・ラジオ以外の情報発信

- ・ 大学から ⇒ ホームページが唯一の手段
- ・ 図書館から ⇒ 図書館の閉鎖期間中、図書館ホームページの更新ができない（図書館から発信できる唯一の手段の断絶）



停電・PCの損壊や流失・学内
サーバー停止に影響されない
発信メディア

Twitter等、学生の間でも活用されている
手軽なソーシャルメディアツールの活用

災害時対策としての図書館公式アカウントの有用性

例) 東日本大震災時に運用を開始したTwitter図書館公式アカウント
⇒ 東北大学「hagi_no_suke」、福島大学「Toriokikun」

4. 翌日以降の状況

- 食料の確保
- ガソリンの不足
- 電源の不足
 - 市中部の復旧は早いが・・・
- 通勤手段の確保（公共交通機関の途絶）
 - 一部運休が続くため、長距離を徒歩や自転車で通勤
- 連絡手段の確保
 - 携帯電話の電波：土樋キャンパス周辺では通じるが・・・
 - ⇒音声電話の復旧が遅いため、職員同士の連絡はメールを活用
 - ⇒震災発生以前に非常時携帯電話連絡網を作成
 - 効果あり
- 保育所・幼稚園・小学校の休園・休校



震災の翌日から市街地のスーパーでは多くの買い物客が行列をつくった

5. 図書館被害状況

5. 図書館被害状況

5-1. 全館被害状況

	蔵書冊数	図書資料 落下冊数	建物・設備の被害状況	書架の被害状況
中央図書館	約65万冊	約39万冊 (60%)	<ul style="list-style-type: none">・壁面タイルの亀裂および一部崩落・壁面等に亀裂発生・利用者用パソコン5台転倒・事務用パソコン1台破損	書架の傾斜 中央図書館M3F・M4Fの スチール書架 傾斜・固定 ボルト破断が著しい
中央図書館分室	約7万冊	約4万冊 (60%)	<ul style="list-style-type: none">・壁面タイルの亀裂および一部崩落・壁面等に亀裂発生	書架の傾斜
泉キャンパス 図書館	約28万冊	約19万冊 (70%)	<ul style="list-style-type: none">・壁面等に亀裂発生・トイレタイルの剥離・利用者用パソコン3台落下	書架の傾斜
多賀城 キャンパス図書館	約15万冊	約1,500冊 (1%)	壁面等に亀裂発生	保存書架の一部傾斜

東北地区大学図書館協議会ホームページ「東北地方太平洋沖地震による東北地区大学図書館協議会加盟館被害状況」より (<http://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/earthquake.pdf>)

5. 図書館被害状況（中央図書館）

5-2. 建物内立ち入り許可時点（3/24）の館内の様子

＜開架閲覧室（1-2階）＞



固定されていなかった書架が倒壊



カウンターを直撃した書棚



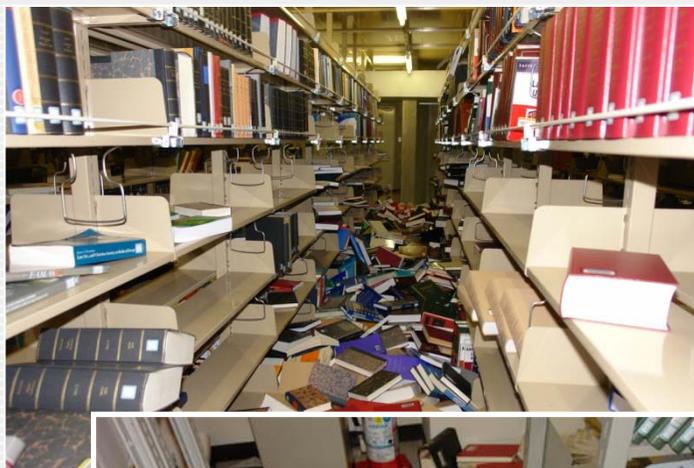
利用者は貴重品のみに持ち避難

5. 図書館被害状況（中央図書館）

43

5-3. 建物内立ち入り許可時点（3/24）の館内の様子

＜閉架書庫（3・M3階）＞



5. 図書館被害状況（中央図書館）

44

5-4. 建物内立ち入り許可時点（3/24）の館内の様子

<閉架書庫（4・M4階）>



左右の大きな揺れにより撓んだ配線バー



落下防止バーが機能したものの、書架に大きな負荷がかかった

5. 図書館被害状況（中央図書館）

5-5. 建物内立ち入り許可時点（3/24）の館内の様子

＜事務室・貴重書展示室・サーバー室＞



ボルトを留めた壁の強度が弱く抜けてしまった



左側：免震装置付き 右側：免震装置なし

5. 図書館被害状況 (泉キャンパス図書館)

46

5-6. 建物内立ち入り許可時点 (3/24) の館内の様子 <2階閲覧室>

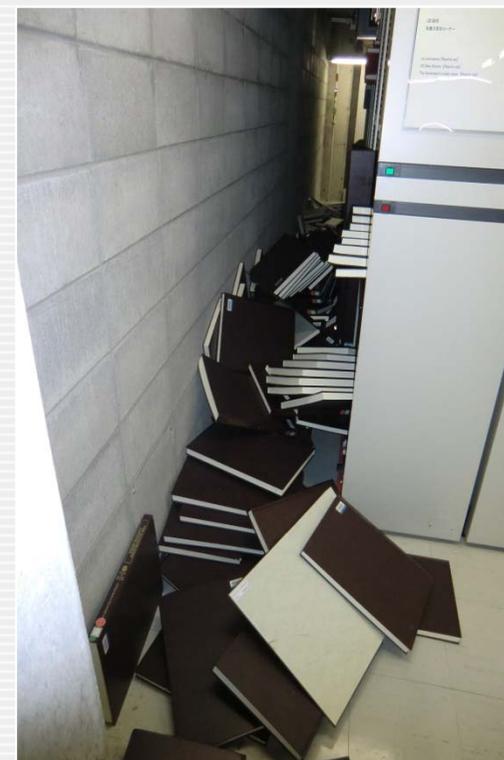
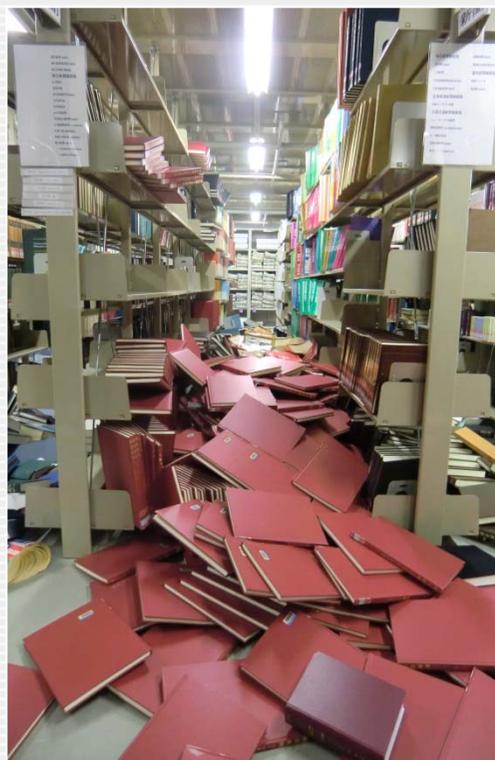


5. 図書館被害状況 (泉キャンパス図書館)

5-7. 建物内立ち入り許可時点 (3/24) の館内の様子 <地下1-2階書庫>



衝撃で折れ曲がったブックエンド



6. 復旧までの道のり

6. 復旧までの道のり

6-1.開館（授業再開）までの主な復旧作業工程

	大学の動き	中央図書館・分室	泉キャンパス図書館	多賀城キャンパス図書館
3/24 (木)	学生安否確認： ⇒未確認数624名	<ul style="list-style-type: none">・建物の応急安全確認/応急耐震診断終了・職員・スタッフの図書館への立ち入りが許可される。 <p>【復旧作業】</p> <ul style="list-style-type: none">・事務室復旧開始	<ul style="list-style-type: none">・建物の応急安全確認/応急耐震診断終了・職員の図書館への立ち入りが許可される。 <p>事務室復旧開始</p>	<ul style="list-style-type: none">・建物の応急安全確認/応急耐震診断終了・職員・スタッフの図書館への立ち入りが許可される。 <p>事務室復旧開始</p>
3/25 (金)		<p>【復旧作業】</p> <ul style="list-style-type: none">・図書館システム（E-Cats）Windowsサーバー再起動・記録及び事務室復旧作業		

6. 復旧までの道のり

	大学の動き	中央図書館・分室	泉キャンパス図書館	多賀城キャンパス 図書館
3/28 (月)	<p>【安否確認】 学生：11,984名の安否確認が終了。233名が未確認</p> <p>【出来事】 ・文部科学省高等教育局長の視察 ・「災害ボランティアの募集」開始</p> <p>【決定事項】 ・新入生に対する財政的な支援を決定</p>	<p>【復旧作業】 ・図書館被害状況調査・復旧作業本格始動 ・開架フロア整備開始</p>	<p>【復旧作業】 ・図書館被害状況調査/復旧作業本格始動 ・開架フロア整備開始</p>	<p>【復旧作業】 ・図書館被害状況調査/復旧作業本格始動 ・返却のみ受付開始 ・事務室復(出勤者3名)</p> <p>【出来事】 ・スタッフ1名⇒本日以降中央図書館勤務(応援) ・スタッフ1名⇒本日以降泉図書館勤務(応援)</p>
		<p>【図書館HP情報発信】 ・「大震災被災による休館中の対応について」 ⇒休館中は返却期限が過ぎていても返却の必要はなし ⇒被災に伴う休館期間中の延滞は、ペナルティの対象外とする ⇒返却可能な場合は各館1階カウンターへ持参(泉キャンパス除外)</p>		
3/29 (火)	<p>【出来事】 「東北学院大学災害ボランティアステーション」設置</p>	各館開架閲覧室を中心に復旧作業		
3/30 (水)	<p>【出来事】 ・災害対策本部(本館会議室)を総務課内へ</p>	<p>【利用者対応】 ・法科大学院生に対する学習室開放本運用開始</p> <p>【復旧作業】 ・3階開架書庫整備開始</p>	<p>【復旧作業】 ・書架破損状況調査</p>	<p>【復旧作業】 ・被害状況チェック終了 ⇒落下冊数1,521冊(うち破損図書50冊) ・上水道通水(微量)</p>

6. 復旧までの道のり

	大学の動き	中央図書館・分室	泉キャンパス図書館	多賀城キャンパス図書館
3/31 (木)	<p>【安否確認】 (安否確認状況100%) 大学：死亡者：3名 行方不明者：2名 高等学校：死亡者：2名</p> <p>【出来事】 平成23年度予算削減・凍結および(暫定)補正予算編成開始</p>			
4/1 (金)		<p>【その他業務】 ・年度末業務開始 (雑誌納品集計・調査回答)</p>		<p>【ライフライン】 ・ガス復旧 ・水道復旧(飲料不可)</p> <p>【復旧作業】 ・1階・2階開架の落下図書配架終了</p>
4/4 (月)	<p>【出来事】 ・青山学院大学・関西学院大学ボランティアチーム来学(支援物資の運搬)</p>	<p>【復旧作業】 ・3階閉架書庫書架戻し作業終了</p> <p>【その他】 ・泉スタッフと中央スタッフの交換勤務開始</p>	<p>【出来事】 ・学生復旧ボランティアによる作業補助開始(-4/7)</p>	<p>【特記事項】 ・水道復旧(飲用可)</p>

6. 復旧までの道のり

	大学の動き	中央図書館・分室	泉キャンパス図書館	多賀城キャンパス 図書館
4/5 (火)		【復旧作業】 ・ 4F書架戻し作業		【利用者対応】 ・ 教員 (2名) ・ 学生 (1名) より、早期開館要望 【その他業務】 ・ ILL四半期相殺
4/6 (水)	【出来事】 ・ 大学ホームページにて授業再開日 (5月9日) 発表	【その他業務】 ・ ILL相殺処理		【利用者対応】 ・ 教員 (1名) 早期開館要望
4/7 (木)	【出来事】 23:32頃 マグニチュード7.1 震度6強の最大規模 余震発生	【復旧作業】 ・ 4階閉架書庫書架戻し 作業終了	【復旧作業】 ・ 2階開架図書の仮置き作業	

6. 復旧までの道のり

	大学の動き	中央図書館・分室	泉キャンパス図書館	多賀城キャンパス 図書館
4/8 (金)	【出来事】 キャンパス内建物 診断のため再度立 ち入り禁止	【勤務体制】 ・専任職員は12:00解散指示 【4/7余震被害状況】 ・1F落下なし ・2F100冊程度落下 ・3F一割程度落下 ・4F3割程度落下 ・M3FM4F未整理部分へさら に落下	【勤務体制】 ・専任職員12時解散指示 ・余震によりスタッフ変則 勤務 【4/7余震被害状況】 ・1階落下なし ・地下1-2階および2階 →復旧作業中のため落 下図書の把握は困難	【勤務体制】 ・専任職員は12:00解散指示 ・スタッフ変則勤務11時解散 指示 【4/7余震被害状況】 被害状況確認・写真撮影 ⇒同日中に落下図書の配架 完了 ・1-2階資料落下108冊 ・視聴覚室 照明落下（取り 付け器具ごと）1箇所 ・スタッフ1名震災後初出勤
4/11 (月)	【出来事】 キャンパス内立ち 入り解禁	【復旧作業】 ・図書館復旧作業再開 ・余震被害状況調査	【復旧作業】 ・図書館復旧作業再開 ・余震被害の写真記録	
4/12 (火)		【図書館HP情報発信】 「図書館被災状況について」	【出来事】 ・中央補助スタッフ・委託 企業サポートスタッフ （社員）派遣開始	

6. 復旧までの道のり

	大学の動き	中央図書館・分室	泉キャンパス図書館	多賀城キャンパス図書館
4/13 (水)	【出来事】 ・土樋キャンパス・多賀城キャンパスカウンセリングセンター再開。		【復旧作業】 ・2階書架修理作業開始	
4/15 (金)		【図書館HP情報発信】 「東日本大震災被災大学図書館への支援（私立大学図書館協会）」 ※私大図協ホームページへリンク		
4/18 (月)	【出来事】 ・土樋キャンパスにて「東北学院大学の復興に向けた全学の集い」開催 ⇒追悼礼拝ののち、学生・教職員安否・被災状況・震災後に改訂された学務日程について報告	【復旧作業】 ・M3階閉架書庫書架戻し終了	【点検・工事】 ・南側書架修理終了	
4/19 (火)			【復旧作業】 ・仮置き図書の配架作業開始（南側書架）	【出来事】 スタッフ（2名） ⇒本日以降中央勤務（応援）

6. 復旧までの道のり

	大学の動き	中央図書館・分室	泉キャンパス図書館	多賀城キャンパス図書館
4/22 (金)		【図書館HP情報発信】 <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館の再開(5月9日)について」 ・教職員宛「図書館の再開について」文書印刷・ポスティング 		
4/27 (水)	【出来事】 <ul style="list-style-type: none"> ・土樋キャンパス・多賀城キャンパスにて新入生オリエンテーション開催 (泉キャンパスは立ち入り禁止のため、泉キャンパス所属の新入生は土樋キャンパスへ通学) 		【復旧作業】 <ul style="list-style-type: none"> ・地下1階周密書架・落下図書の復旧 	
5/6 (金)		【復旧作業】 <ul style="list-style-type: none"> ・M4階閉架書庫資料運び出し作業 	【出来事】 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館内のトイレ復旧 	
5/9 (月)	授業再開	図書館開館（部分開館） <p>分室のみ：館外貸出⇒7月19日（火） 開館⇒8/29</p> <p>※以降、開館と並行して下記のとおり作業続行 中央図書館閉架書庫：7月1日まで 泉キャンパス開架書架：7月7日まで</p>		図書館開館（完全開館） <p>【利用者対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生図書館説明会 ・工学基礎教育センター相談コーナーへの施設貸出開始（～5/31）

6. 復旧までの道のり

6-2. サービス再開状況

	中央図書館	中央図書館分室	泉キャンパス図書館	多賀城キャンパス図書館
館外貸出 閲覧請求 学内・学外相互利用	6月6日(月) ※M4Fのみ7/4-	7月19日(火) ※中央館受付とし、開館は 9/5	6月6日(月) ※B1Fのみ7/8-	5月9日(月)
入庫受付	3-M3階:7月11日(月) M4F:9月20日(火)	9月5日(月)	7月11日(月)	-
購入要望図書受付	5月27日(金)	-	6月1日(水)	5月16日(月)
利用説明会	6月6日(月) -	-	6月6日(月) -	5月9日(月) -
利用時間	-7/9 9:00-18:00 7/11- 8:30-20:00 8/10- 9:00-19:30 9/20- 8:30-22:00 (通常開館)	-9/3 中央館受付 9/5 - 10:00-17:00 9/20 - 10:00-21:00 (通常開館)	-7/9 9:00-17:00 7/11 - 8:30-20:00 8/10 - 9:00-17:00 9/20 - 8:30-20:00 (通常開館)	-7/9 9:00-17:00 7/11 - 8:30-20:00 8/10 - 9:00-17:00 9/20 - 8:30-20:00 (通常開館)
一般利用 (学外者) 受付	9月20日(火) 後期授業開始日	-	9月20日(火) 後期授業開始日	9月20日(火) 後期授業開始日

6. 復旧までの道のり

6-3. 被害状況の把握

- 本震直後より全キャンパス図書館立ち入り禁止（～3月24日）
- 被害状況調査期間：建物診断 / 3月12日-23日
内部被害調査 / 3月24日-30日



中央図書館の門扉に貼られた建物診断結果用紙には「調査困難」の文字が



6. 復旧までの道のり

6-5. 落下図書戻し

中央図書館落下図書戻し作業の様子



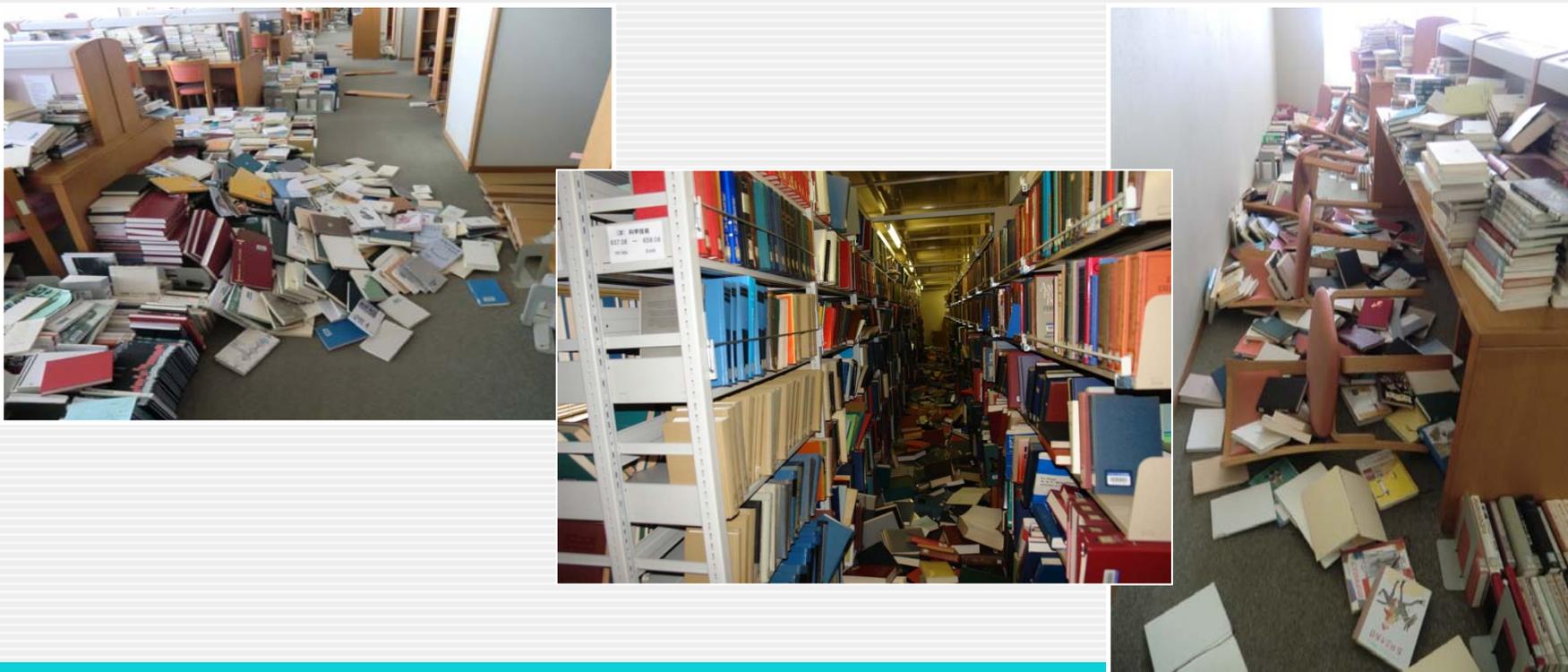
after



6. 復旧までの道のり

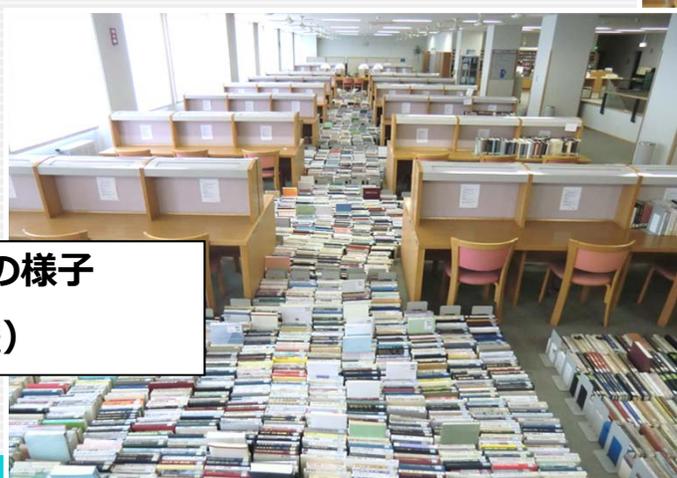
6-6. 4.7最大余震

- 2011年4月7日（木） マグニチュード7.1 震度6強
- 3.11の余震としては最大規模。一時停電。
- 4月8日（金）より再び建物立ち入り禁止（4月11日（月）解除）



6. 復旧までの道のり

6-7. 復旧作業再開 (4/11-)



泉キャンパス図書館復旧作業の様子
(学生ボランティアが活躍)

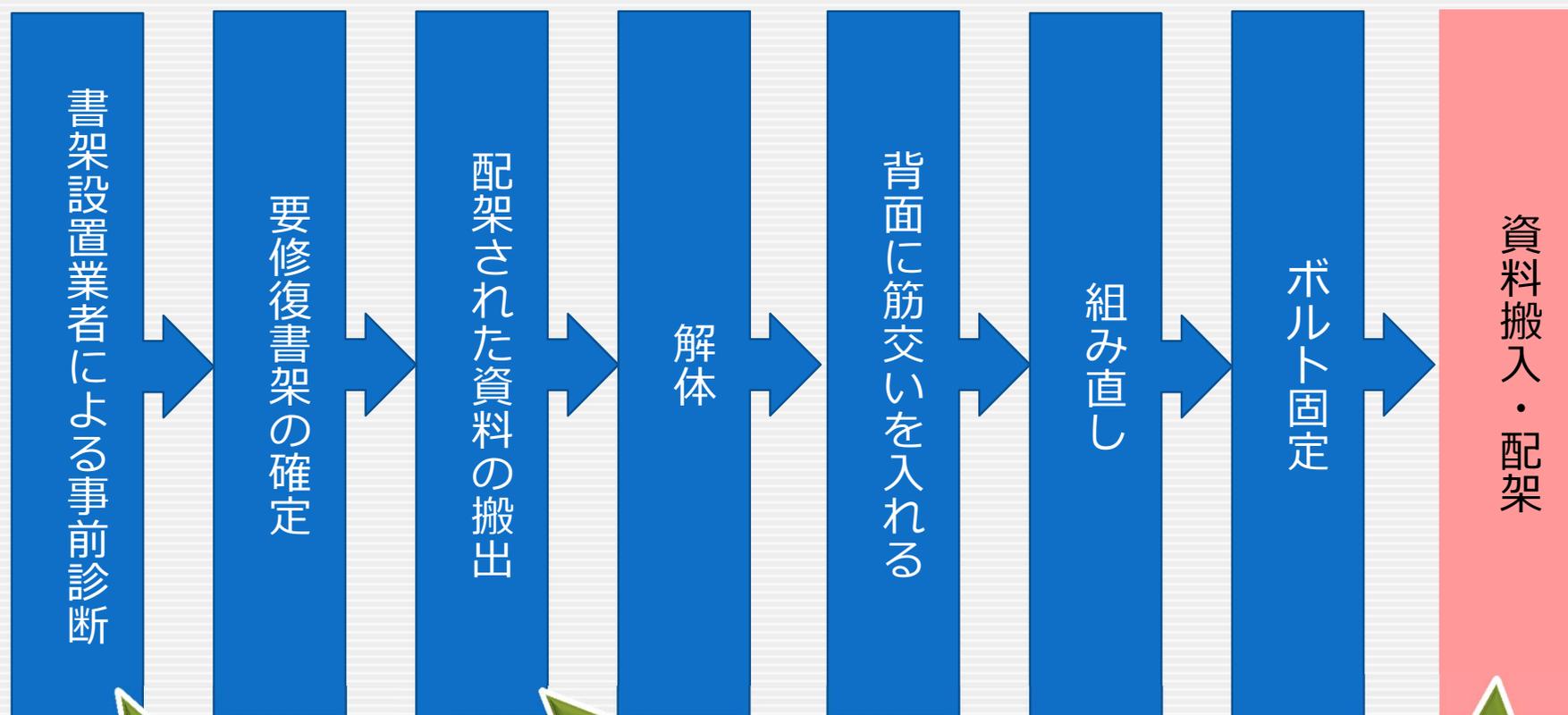
6. 復旧までの道のり

6-8. 被害を受けた書架台数と修復工事日数 多賀城キャンパス該当なし 要修理書架数は2011年5月6日

	中央図書館			中央図書館分室			泉キャンパス図書館		
	階数	被害台数	復旧工事 工期	階数	被害台数	復旧工事 工期	階数	被害台数	復旧工事 工期
スチール 書架 (複式)	M3階	51台	5/30-6/1 3日間	1-4階	90台	6/16,7/5-8 実工事日数 5日間	-	-	-
	M4階	545台	6/2-6/23 実工事日数 19日間	-	-	-	-	-	-
木製書架 (複式)	-	-	-	-	-	-	1階	9台	4/13-29 実工事日数 13日間
	-	-	-	-	-	-	2階	288台	
電動書架	-	-	-	-	-	-	地下	276台	6/24-7/4 実工事日数 9日間

6. 復旧までの道のり

6-9. 書架修復・書庫復旧工程（中央図書館閉架書庫）



設置当時の図面を持っているので
診断もスムーズ

M4階書庫はほぼ全ての書架について修復が必要
⇒1フロアを全て空っぽにしなければ・・・
※M4階（雑誌フロア）所蔵タイトル数約8,200

とにかく人海戦術！

6. 復旧までの道のり

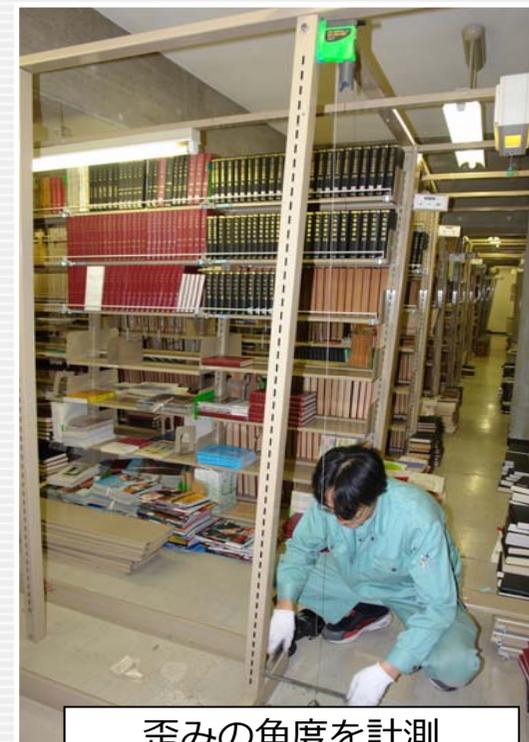
6-10. 書架・施設修復工事の様子



床面アンカー止め部分



歪みのひどい書架を一部解体
(背面に筋交を入れたのち、再度組み直す)



歪みの角度を計測

6. 復旧までの道のり



従来の「点」で支えていたボルトに加え「面」で支えるボルトを追加



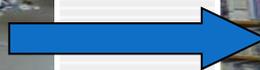
6. 復旧までの道のり



筋交い (ブレース) を入れ
横方向の揺れに対する強度をUP

6. 復旧までの道のり

泉キャンパス図書館書架修復工事の様子
(2011年6月24日-7月4日)

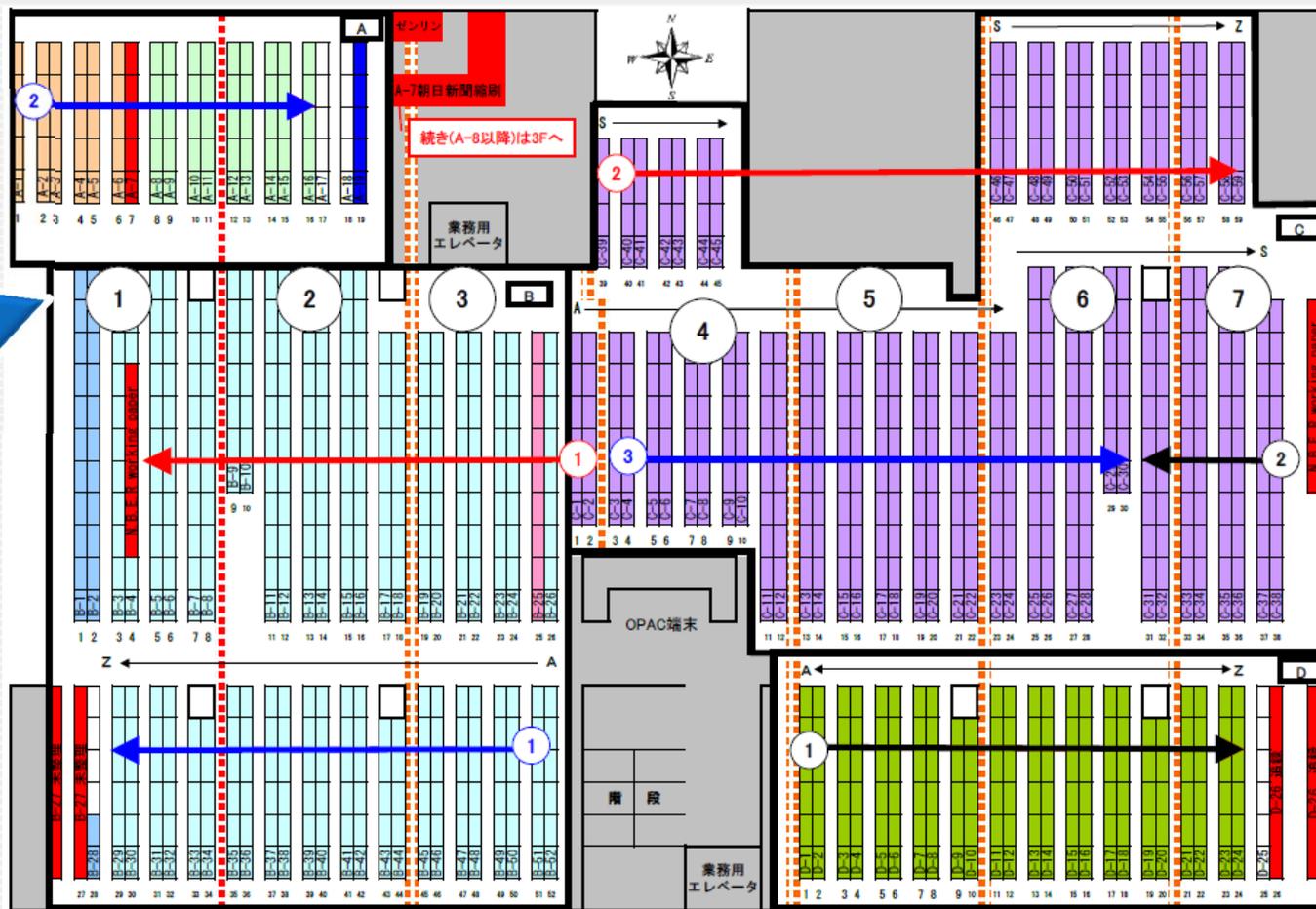


6. 復旧までの道のり

6-11. 閉架書庫資料の搬入・配架ルート例

赤チーム
青チーム
黒チーム

1チームあたり4名程度に分かれて作業



6. 復旧までの道のり

6-12. 改めて図書館の設備を見ると・・

- 書庫内の配管が多い
 - ⇒各種配管が縦横無尽に。
 - ⇒水道管破損による資料の水損のおそれ
- 避難通路の確保に不安がある
 - ⇒全ての通路に資料が落下すると逃げられない・・
 - ⇒「資料を落とさない」通路を確保する必要あり？
- 書庫の見通しが悪い
 - ⇒資料保存の観点から窓の増設は困難？
 - ⇒照度の高い懐中電灯・蓄光テープ等の設置



停電時の書庫内

6. 復旧までの道のり

6-13. 開館へむけて決めなくてはいけないこと

➤ 資料受入はどうする？

雑誌：開館予定日1週間前から受入再開

図書：5月に開催の図書館委員会にて予算案が承認され次第受入開始

➤ 未返却図書の扱いは？

⇒督促は「貸出中の図書の確認」という形を取る

⇒死亡・行方不明学生への貸出状況の確認（該当なし）

⇒震災当日以降開館までの日数分はペナルティ対象外とする

※帰国した留学生の未返却図書の返却あり（国際交流課経由）

➤ 被災により汚破損・紛失した貸出資料の対応は？

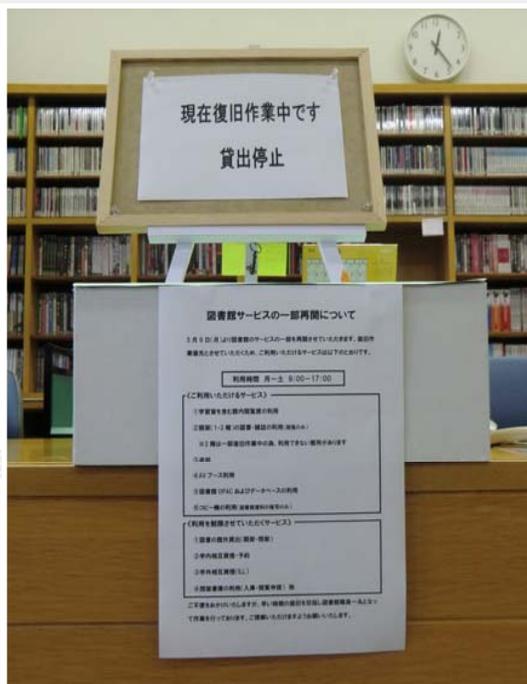
⇒弁済なし

⇒汚破損の状態問わず、現物があるものは全て返却として受け付ける

⇒届出書の記入をお願いする

6. 復旧までの道のり

6-14. 部分開館（2011年5月9日）



復旧作業のため開架書架の一部を閉鎖した状態で開館
(泉キャンパス図書館)

6. 復旧までの道のり

6-15. 復旧作業を行う上で留意したこと

- 作業中の安全確保
 - ⇒緊急地震速報を聴くことができるよう、書庫内・閲覧室内に常時ラジオ放送を流す
- 肉体労働かつ長期戦となるため、絶対に無理をしない。
- 一人で書庫内に立ち入らない。作業時は必ず複数人で。
- 作業前に非常階段・非常口位置を確認
- 揺れを感じた際には素早く書架から離れ、安全な場所へ
 - ⇒書庫内の「比較的安全な場所」の確認
- お互いに声を掛け合い、いたわりの気持ちを忘れない
- 休憩タイムはみんなでワイワイと
- 作業時間は厳密に管理。
 - ⇒時間オーバーや「きりのよいところまで」はスタッフのモチベーションを下げる（指示される側⇒自らの裁量で作業できない）

6. 復旧までの道のり

6-16. 復旧作業を行う上で留意したこと

- 作業計画・進捗状況をスタッフへ常に公開し、共有する
⇒先が見えない作業の「見える化」
- 外部への情報公開の重要性（外から見てわからない＝「何もなかった」？）
⇒saveMLAK ホームページ（<http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>）「施設情報」への情報提供
⇒図書館ホームページに復旧状況を掲載



saveMLAK HP「施設情報」の本学に関する記載ページ



図書館HPで公開した被災状況写真

7. 外部支援

7. 外部支援

7-1. 外部からの各種支援

皆様からのあたたかいご支援・ご協力に心より感謝申し上げます

〈お寄せいただいたご厚意〉

- 私立大学図書館協会 様
 - ⇒ 「東日本大震災で被災された地域の大学図書館に対する支援」
- saveMLAK 様 書庫復旧作業ボランティア支援
- 国立国会図書館 様 資料補修講習会支援
 - ⇒ 東北地区大学図書館協議会加盟校対象
- 電子ジャーナル・データベース各社による利用料金の減免
- たくさんの支援物資とお見舞い

7. 外部支援

7-2. saveMLAKによる支援（2011年6月27日～7月1日）

- ▶ 作業内容：書架修理のために他フロアへ移動した図書・雑誌の搬入および配架
- ▶ 作業人員：延べ14名（1日あたり5～6名）
元/現役図書館職員（公共・大学・専門）・団体職員・会社員等



新聞記事掲載：

『被災図書館など復旧手伝います…司書ら仙台で活動』（2011年6月29日付 読売新聞朝刊）

『特集3.11大震災 被災施設の復旧支援 施設関係者がボランティア活動』（2011年8月7日付 河北新報朝刊）

7. 外部支援

7-3. 国立国会図書館による支援（東北地区大学図書館協議会加盟校対象）

- ▶ 「東日本大震災により被災した資料の補修・保存に関する研修会」
 - ・開催日：2011年7月27日
 - ・講師：国立国会図書館 収集書誌部資料保存課職員3名
 - ・参加者：36名（参加校：31校）



8. 考えたこと・取り組んだこと

8. 考えたこと・取り組んだこと

8-1. After 3.11

- 落下防止バー設置の継続
- ヘルメットの設置（全員に配布）
- 図書館独自の避難訓練の実施
- 全学避難訓練への継続参加
- 緊急時マニュアルの改訂
 - ⇒マニュアル置き場の明確化
- 避難経路マップの掲示



8. 考えたこと・取り組んだこと

- 減災へつなげる書架への配架の工夫
- 災害対策グッズの確認
- どんなに小さな揺れでも注意喚起 ⇒常に防災を意識
- 非常時館内アナウンス手法とアナウンス内容の確認
(停電時/通電時)
- 館内の危険箇所・安全な箇所の把握
- 避難誘導シミュレーション
- 書庫入庫時には周囲に必ず一声かける
- 利用者の閉架書庫入庫管理 ⇒ 入庫中人数の把握
- 閉架書庫入庫者の避難誘導担当者を明確に

⇒本学の例) 閲覧スタッフ：開架（1-2階）利用者の誘導

整理スタッフ：閉架書庫（3-M4階）利用者の誘導

- 図書館イベント（利用説明会・情報検索講座・インターンシップ等）での注意喚起アナウンス



大型本等、落下時に危険な資料は書架下段へ

8. 考えたこと・取り組んだこと

8-2. 緊急時対応マニュアル

- 緊急事態発生時の連絡先と連絡フローの明示
- 専任職員不在時の緊急連絡先の明示
 - ⇒警察・消防・保健室・警備室・学生課・施設課
- 緊急連絡網へのメールアドレスの記載
- 負傷・急病人発生時の連絡先・対応フローの明示
- 大規模地震発生時の対応
 - ⇒自らの身の安全を守る・揺れが収まってから利用者を避難させる
- 火災発生時の対応
 - ⇒キャンパス内の主な防災設備の説明
- キャンパス指定避難場所の明示
- 館内防災マップの明示
- ⇒消火器・消火栓・避難器具・非常口・非常階段の位置

8. 考えたこと・取り組んだこと

8-3. 復旧作業の中で考えたこと

- 大学職員としての立場と図書館職員としての立場
他部局応援に入った際に感じたのは・・・
 - ⇒図書館員としての役割は求められていない
 - ⇒大学職員として「いま」できることは？
- 復旧作業計画作成担当者と復旧作業
最も重要で時間を要するのは「復旧作業計画を立てる」こと
作業計画作成と復旧作業を同時に進めることで、作業効率もUP
 - ⇒作業計画担当者が計画作成に専念できる環境が必要

職員間・スタッフ間に生じる
不公平感・罪悪感の回避

- 復旧作業と通常業務の切り分け
図書館復旧に全力を注ぎたいと考えても、年度末・年度初めは待ったなしでやってくる（決算・各種調査・会計処理etc・・・）
 - ⇒復旧作業に専念する人、通常業務に専念する人を明確に

8. 考えたこと・取り組んだこと

- ▶ 本を「落とす」か「落とさない」か

	メリット	デメリット
落とす	書架にかかる負荷の軽減	落下図書により避難経路の確保が困難
落とさない	落下図書による負傷を防ぐ	書架全体にかかる負荷の増大

資料や設備を守るか？人命を守るか？

- ▶ 避難経路の確保（特に閉架書庫内）
狭い通路に本が埋まり、避難の妨げに
⇒ 「絶対に落とさない」場所も必要？

例1) 避難経路沿いに面する書架は配架を少なめにし、全段に落下防止バーを設置（書架転倒防止策も）

例2) 通路・避難経路に面した書架について重点的に滑り止めシートを設置
特に資料の落下が激しいフロアは避難経路に面した書架から資料を移動
（東北大学附属図書館医学分館の例）

吉植庄栄・坂本香代・佐々木智穂・石橋典子・工藤未来・小林真理絵. “震災後1年の復旧と災害対策の現状－東北大学および宮城教育大学の図書館・図書室の実例から－”. 大学の図書館. Vol.31 No.8, 2012, p.145

壊れた書架や資料は修理できる
でも、人命は…

8. 考えたこと・取り組んだこと

➤ 開館しながら復旧作業を行う難しさ

利用者からのクレーム

「どうして入庫できないのか？」 「どうして出納してくれないのか？」

⇒被災状況・復旧状況の写真を公開し理解を得る

「書架に張ったロープが邪魔で使いにくい！」

⇒余震が収まるまで、安全を第一に考えた措置であることを伝え理解を得る



ロープを利用した落下防止対策（泉キャンパス図書館）



図書館復旧中

当分の間は復旧作業をしながらの開館となります。
ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いします。

利用時間 月～土 9:00-17:00

Q & A

Q：本は借りられるの？

A：申し訳ございませんが貸出はできません。震災で約30万冊ある本のうち、約20万冊が落下しました。復旧が終わるまでお待ちください。

Q：書庫に入れるの？

A：地下にある書庫は、安全性の面からも当分の間、入れません。

作業中につきご迷惑おかけします

本を動かす作業の為、若干の騒音が出ます
復旧中は作業層で対応させていただきます

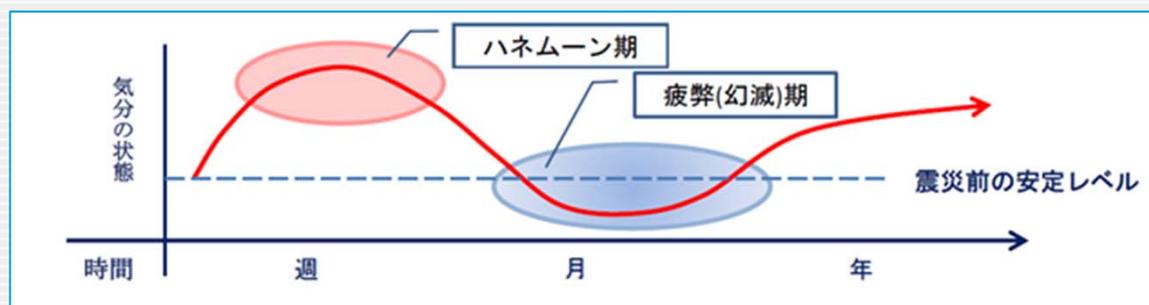


復旧作業・利用制限周知ポスター
（泉キャンパス図書館）

8. 考えたこと・取り組んだこと

8-4. 大切にしたいこと -こころのケア

- ▶ 職員・スタッフ全員が被災者である
 - ⇒特に仙台では被害が甚大な沿岸部と市中心部の復旧の差が激しい
 - ⇒復旧の明暗がはっきりしている分、個々人の感覚に温度差がある
- ▶ 非常時の個々人の行動の差・意識の差から生まれる小さなほころびの解消
 - ⇒非常時の行動は強く印象に残る⇒「その行動が必要であった」理由を汲み取る
- ▶ 復旧作業が長期に亘る場合 ⇒大災害後の「こころの動き」を理解する



震災の数日後から1～2か月程度は、「みんなで一緒に頑張ろう！」と一時的に気分が高揚する、『ハネムーン期』と呼ばれる時期がありました。そこから数カ月ほど経つと、疲労が蓄積し、現実的な壁にぶつかったりして、気分も落ち込みがちになります。今がちょうどその『疲弊期』の時期にあたります。

9. これから、図書館ができること

9. これから、図書館ができること

▶ 東北学院東日本大震災アーカイブプロジェクト（2012.3-進行中）

<図書館・法人事務局広報課との連携事業>

- ⇒昭和53（1978）年に起きた宮城県沖地震の記録が残っていなかった反省を踏まえ、震災にかかる東北学院の記録を整理し後世に伝える
- ⇒震災に立ち向かう中で、教育機関としての本学院のなすべきこと、それをなし得たかについて検証する

<収集対象資料>

- ・東北学院内で記録された事務文書等、東日本大震災に関するすべての資料（文書データ・画像・動画・手書きメモ等、媒体は限定せず）
- ・震災の記憶（インタビューシート）

一次資料の収集 ⇒ 電子化 ⇒ データベース化
(データベースは一部公開予定)

図書館で電子化した資料にオーラル
ヒストリーを加え、記録集を作成

部局横断で電子化WG / 記録集WGを組織

図書館

広報課

参考文献

- 1) 小陳左和子. “そのとき私たちができたこと－東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災－”. 平成23年度第2回東海地区大学図書館協議会研修会資料. 2012
- 2) 加藤孔敬. “その時何が起こり、どのように行動したか－東松島市の場合－”. 第33回図書館建築研修会 東日本大震災に学ぶ. 日本図書館協会, 2012. p.47-53
- 3) 柳瀬寛夫. “4.家具類－本の落下対策を中心に”. 第33回図書館建築研修会 東日本大震災に学ぶ. 日本図書館協会, 2012. p.75-82
- 4) 吉植庄栄・坂本香代・佐々木智穂・石橋典子・工藤未来・小林真理絵. “震災後1年の復旧と災害対策の現状－東北大学および宮城教育大学の図書館・図書室の実例から－”. 大学の図書館. Vol.31 No.8, 2012, p.145
- 5) 東北地区大学図書館協議会. “東北地方太平洋沖地震による東北地区大学図書館協議会加盟館の被害状況”. (オンライン), <http://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/earthquake.pdf> (参照 2012-11-4)
- 6) 私立大学図書館協会. “東日本大震災で被災された地域の大学図書館に対する支援”. (オンライン), <http://www.jaspul.org/pre/sinsai/index.html> (参照 2012-11-6)
- 7) 学校法人東北学院. 東日本大震災 東北学院1年の記録. 東北学院法人事務局広報部広報課, 2012. 93p